

2013

広報

おばま 6



《表紙》

5月3日～5日までの3日間、西津地区で西津七年祭が盛大に開催されました。

祭り3日目のこの日は、小松原川西会館前に設置されたお旅所で宮出しが行われ、太刀の演舞を始め、各区の余興が披露されました。

※P2からの、祭り特集もご覧ください

(5月5日・小松原川西)

いにしえ

【特集】祭り～古からの地域の宝～



同じ土地に住む仲間たちとともに、土地神を祭り、豊漁豊作や健康を祈り、日々の生活に感謝をする「祭り」。少子高齢化や人口流出により、年々継承が難しくなっている側面もありますが、祭りを支える多くの人の力により、この小浜でも、「伝統の継承」と、人間同士の「温かな交流」が続いています。

祭りの古きからの地域の宝

いにしえ

助け合いの心で、
村祭りは続く！



宗像神社祭礼委員会
事務局長 杓子 明 さん
(66歳・小松原川西)

村社会
自分たちの村を守りたいという気持ちがあれば、祭りは続けられます

祭りを続ける3つのキーワード

共助
お互いに助け合う共助の心が、高齢化社会の祭りを支えます

継続・継承
300年を超える先人達の想いを胸に、縮小しても続けることが大事です

にしづしちねんまつり 西津七年祭

5月3日(金)～5日(日)
むなかた
宗像神社(北塩屋)ほか

宗像神社の式年七年大祭。7年毎に、巳年と亥年の5月に営まれており、近年は2日間に短縮して行われていましたが、「江戸時代から続いた本来の祭りを継承しよう」と、今年は仮宮を新小松原と小松原川西に置き、30年振りとなる3日間の行程で行われました。

新小松原(一部北長町含む)、小松原川東(一部西長町含む)、小松原川西(一部板屋町含む)の氏子による、大太鼓・太刀・神楽・琵琶といった余興が繰り出され、神社や地区内の家々などで演技や囃子がにぎやかに披露されました。市無形民俗文化財指定。





愛宕神社前責任総代
みなみ くにひろ
南 邦弘 さん (76 歳・伏原)

来年は、記念すべき
愛宕祭りの400年祭

儉約

祭りの継続と宮の管理はお金がかかります。儉約と貯蓄が大事

楽しさ

祭りは同窓会にもなります。みんなで楽しいものにしたいです

歴史

長年、若狭の火伏せの神として祭られてきた歴史を守りたいです

祭りを続ける
3つのキーワード



あたごまつ
愛宕祭り

7月13日(土)

愛宕神社(伏原) ほか

神田、大宮、伏原の区民による愛宕神社例祭。伏原区では、男衆が長さ3尺、重さ約300kgの大たいまつを担ぎ、後瀬山を上がります。山頂では、たいまつを燃やし、防火と無病息災を祈ります。

祭りを続ける
3つのキーワード

心

祭りに参加する皆さんが持っている、祭りが好きという思いが大事

子ども

練習はムチ、本番ではアメを与えて、祭りは楽しいものだと言いたいです

コミュニケーション

練習や祭りが終わった後の飲み会も必要。みんなの親睦を深めたいです



お城祭り
しるまつ

5月2日(土)〜3日(金)

小浜神社(城内二丁目) ほか

300年の歴史を持つ小浜神社の例祭が2日間にわたって行われました。一番町、城内、雲浜、山手、水取の氏子が、五穀豊穡を祈願しながら、雲浜獅子や大太鼓、神輿などで地区内を巡行。辺りにはぎやかな笛や太鼓の音色に包まれました。雲浜獅子は県無形民俗文化財指定。

出し物の
バリエーション
豊富なが見どころ



雲浜獅子保存会総務
いのうえ よしひろ
井上 嘉弘 さん
(45 歳・甲ヶ崎)

ぎおんまつり
祇園祭

7月20日(土)〜21日(日)

広額神社(千種二丁目)ほか

上竹原、下竹原、府中の区民による広額神社例祭。神輿が地区内を巡行した後、小浜港から西津漁港のお旅所まで船で運ばれます。2日目には男たちが木製の鎌を取り合う鎌取り神事が行われます。



祭りを続ける
3つのキーワード



意見交換

祭りが良くなるように、世代を超えて意見を交わしています

マンネリ打破

巡行ルートを少し変えるなど、目新しさもときには必要です

地域

コミュニティ

祭りは、普段あまり会うことがない区民が集まる大切な機会

夏祭りは日本の風景
子どもたちに体験させたい



祇園祭下竹原区若衆
かわしま きよと
川嶋 清人 さん (38 歳・下竹原)





おにゅうまつり
遠敷祭

10月12日(土)～13日(日)

若狭彦神社(竜前)ほか

若狭彦神社と若狭姫神社(遠敷)の例祭。検見坂、池田、市場、島、中村、遠敷の氏子による、若狭一の宮大太鼓と神楽、遠敷大太鼓が隔年交代で、地区内を練り歩き、太鼓や稚児舞、お囃子を奉納し、五穀豊穡を祈願します。



毎年出たいぐらいお祭りが楽しみ!

遠敷祭氏子・神楽
まつだ ちか
松田 千佳 さん(22歳・池田)

祭りを続ける
3つのキーワード

思い

昔から続けてきたお祭り。自分の時代ではなくしたくないです

地域の結びつき

小浜は都会ではないですが、地域の人との結びつきがあります

継承

祭りに参加する姿を小さい子に見せて、楽しさを伝えたいです



※「おまつりおはやしおどり」(若狭歴史民俗資料館発行)に掲載されている祭りや、文化財指定の祭りを取り上げています

10月

日枝神社例祭(深谷)
春日神社例祭(阿納)



加茂神社例祭

9月

若狭彦姫神社八朔祭(泊)
加茂神社例祭(下田)

8月

久須夜神社例祭(堅海)



天満神社例祭

5月

西津祭(釣姫神社・山手)
3丁目、日吉神社、玉津
島神社・ともに小湊
椎村神社例祭(若狭)
天満神社例祭(田島)

若狭おばま祭時記



若狭歴史民俗資料館副館長
かきとう としひろ
垣東 敏博 さん(53歳・高塚)

神々を鎮め慰め地域の災厄を払うため、趣向を凝らし華やかさを競い、長い歴史の中で洗練されてきた多彩な芸能が見られることが、若狭の祭りの特色です。祭りで芸や囃子を演じることは人々の大きな楽しみであり、その継承を通じて人が育ち、地域が活性化します。祭りは地域の過去・現在・未来をつなぐ貴重な文化です

若狭歴史民俗資料館トピック展示
「若狭の祭り」紹介 小浜放生祭」

とき 7月9日(土)～8月31日(土)

9時～17時(入館は16時30分まで)

ところ 若狭歴史民俗資料館(遠敷2丁目)

料金 無料

問い合わせ 若狭歴史民俗資料館 ☎56・0525

継承

先人から受け継いだタスキを次世代に受け継ぐことが氏子の務めです

歴史

深野区との関係は大切な歴史。お互いに敬意を払いながら大切にしたい

心意気

祇園祭からの歴史を守り、盛大に祭りをすることが町衆としての心意気

祭りを続ける
3つの
キーワード

神楽の技を
伝えていきます
わたしたちも
頑張っていくぞ!



鹿島区神楽囃子保存会副会長
てらい とういちろう
寺井 藤一朗 さん(60歳・鹿島)

深野神楽保存会長
はやし しげはる
林 茂晴 さん(63歳・深野)

人

若い世代や、それを支える区の皆さん、多くの人の力で神楽が復活できます

縁

鹿島区保存会の積極的な姿勢が後押しに。縁をいただけて良かったです

地域のにぎわい

神楽の練習を外ですると人が集まる。祭りは地域のにぎわいを生みます

ふかの かぐら だいこ
深野神楽太鼓
(苅田姫神社秋祭り)

10月6日(日)
かりたひめ
苅田姫神社(深野)ほか

深野区では、後継者不足から20年間途絶えていた深野神楽太鼓を、もう一度復活させようと、取り組みが続いています。2年前から若い世代の積極的な練習と、江戸時代に神楽を鹿島区から伝授されたという歴史を踏まえ、鹿島区からの指導交流を行いながら、今年10月に祭りでの奉納を目指しています。

天保10年(1839年)の「薬師開帳附神楽入用控」(深野区有文書)によると、深野区の中西町(現在の鹿島区)から伝授されたものと記録されています

ほうぜまつり
放生祭

9月14日(土)～15日(日)
はちまん
八幡神社(男山)ほか

300年の歴史を持つ八幡神社の例祭。小浜地区内24区の氏子による、神輿、山車、神楽、大太鼓、獅子など多彩な出し物が隔年交代で、地区内を巡行します。2日目には各出し物が一同に集まり、演技やお囃子を披露する「共演」が行われます。県無形民俗文化財指定。